

# 三中だより

令和元年度 2月号



令和2年2月3日発行  
荒川区立第三中学校  
(学校通信 No15)

作成者 校長 清水隆彦

## 2月7日（金）授業改善に向けた研究発表会 開催

（当日は授業公開を兼ねていますので保護者、地域の皆様に参観していただけます）

校長 清水隆彦

今回の学校だよりは、2月7日（金）に開催します荒川区教育委員会研究指定校の研究発表会についてお知らせします。当日は、別紙でもお知らせしているところですが、研究発表会とともに地域・保護者の皆様にも授業公開日を兼ねてご見学いただけます。ぜひ、最先端の授業改善に向けてご見学ください。すでに他県からも多数の参加申込みがあります。少し、活字が多くなり申し訳ありません。本校が何年もかけて取り組んできた授業改善について少しでもご理解いただければうれしく思います。

### 〔1〕研究の主題

令和元年度、小中一貫教育実践校

平成28年度～令和元年度 荒川区教育委員会 教育研究指定校（4年間）

研究主題「基礎的・汎用的能力を育むアクティブ・ラーニングの在り方」

（21世紀型能力の育成を目指して）

### 〔2〕そもそもキャリア教育とは何なのでしょう

キャリア教育という表現は、平成11年の中央教育審議会答申で「キャリア教育を小学校から段階的に実施する必要がある」と記されました。この時日本で初めてその言葉が登場し、現在では全国的にある程度定着してきました。今回改正される新学習指導要領でも重要な教育としてと位置づけられました。

キャリア教育が導入された当初は、何か職場体験を中心とする体験活動やゲストを招いての講話というものが中心に行われました。本校でも「校内ハローワーク」や「おもしろ探求授業」「5日間の勤労留学」等、全国の先端をいく取組を実践しているところで、「キャリア教育＝職場体験的な行事」と捉える傾向がありました。このことは全国に講演の依頼を受けてお話に行くと、多くの教育関係者もそう考えているということがわかりました。

当初、少し誤解を受けたキャリア教育ですが、本来意味することは、「社会人として求められる資質・能力を育成する教育」だということです。この表現では、少々抽象的でわかりづらいかもしれません。文部科学省では、次の4つの能力で表現しています。このことをまとめて「基礎的・汎用的能力」と表しています。

①人間関係形成・社会形成能力 ②自己理解・自己管理能力 ③課題対応能力 ④キャリアプランニング能力です。簡単に言えば、テストの得点力だけでなく、社会に出れば人間関係をしっかりつくる力や自分自身をしっかり管理する力、課題を解決していく力、先を見通す力が必要であるということです。

試験で点数を獲得する実力とともに、人間的な成長やまわりへの順応性もまた必要であると示しています。現在、社会人として求められる能力と学校教育の学びの隔たりがあるととも言われることがあります。また、マスコミ等で報道されているように大学入試制度の改革も迫ってきています。単に記憶した量だけを競うのではなく、自分の考え方を自分の言葉で表現することや先の予想を立てて課題を解決していくような力が求められているのです。

新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）という表現は、正にその力の育成を表現しているとも考えられます。



【白熱した授業後の協議会風景】



【協議内容を共有する】

### 〔3〕第三中学校がこれまで取り組んできたこと（研究してきたこと）

キャリア教育で求められる能力は、教育のあらゆる場面で育成されなくてはなりません。本校で実施する「校内ハローワーク」や「おもしろ探求授業」等の体験活動は、社会人の皆様のお話をお聞きすることで、社会人として求められる資質・能力、社会人の凄さを感じ、将来に向けて頑張ろうとする気持ちが芽生えます。しかし、気がつくだけでは、その力を身につけたことにはなりません。大切なことは、その気づきを本物の力に変える必要があります。

そこで、基礎的・汎用的な能力は体験活動のみならず、教科の指導でこそ身につけることが必要となります。本校では、そのことに着目して、長期にわたり荒川区教育委員会教育研究指定校をお認めいただき、授業改善に向けた研究を行ってきました。具体的には、授業の中で議論する場面を意図的に設定する、ICT機器（タブレットPC）を適切に使い学びを広げる、学校図書館で書籍を活用して文書を読み込む力を育成する等を意識した授業改善を行うことです。教科指導という授業の中に社会で求められる資質・能力を育てるようにしています。

【議論型】



【学校図書館活用型】



【ICT機器活用型】



年間に約30回の研究授業を行い、専門分野の大学の先生を交えて授業の在り方を協議します。この数は、おそらく相当に厳しい、苦しい数値かもしれませんが、授業改善のために全教職員で力を合わせて取り組んできました。研究授業の際は、時には他県の先生方が来校され議論に加わっていただくこともありました。様々な角度から議論を繰り返しました。

荒川区は、学校図書館の書籍の充実、1人1台のタブレットPCが配置されているなど授業改善にはこれ以上ないという環境にあり、それは、他の地域から羨ましがられるほどです。本校では今年度、学校図書館活用授業は500回近くになり、環境を生かした授業改善が進行中です。

授業に意欲的に取り組ませるには、動機付けが重要です。何かに興味・関心をもって聞くと、受け身で聞くのでは大きな差が出ます。そこで活躍するのがタブレットPCであり、学校図書館の書籍の活用となります。タブレットPCによる調べ学習では、瞬時に出てくる多くの情報の中から自分に必要な情報を選び出します。書籍による調べ学習では、関連した内容をつなぎ、まわりにある情報を吸収しながら目的に近づきます。この2つの手法で身につけた能力は、いずれも社会に出て求められる能力であり、それを鍛えることを目的にしています。

また、本校で重要視しているのは議論型授業です。2人以上で考えたり、問題を解いたりすることで自分の考えを見直すチャンスが増える、相手の解を「少し広い視野」から見直せる、一人一人が自分の考えを作り直すことを繰り返し、より適用範囲の広い理解が生み出される、わかってくると次にわからないことが見えてくる。そのような視点を重視し、本校では議論する場面を意図的に取り入れた授業改善を進めています。この議論型授業により、近くに迫っている大学入試改革や社会人として求められる資質・能力の育成に結びつくものと考えています。

### 〔4〕授業改善の研究からわかり始めたこと

研究4年目を迎えた本年度、本校の授業改善の取組がどのように役立っているのかを知るため、各世代の卒業生に集ってもらい座談会形式で効果検証を行いました。卒業生からは、高校生活で第三中学校での学びの効果について次のように話していました。（一部紹介）

- ①三中では、どの授業でも議論することが当たり前だったので高校へ入って、急に増えた議論型授業にも全く戸惑うことなく取り組めた。
- ②議論する際、相手の意見を余裕をもって聞くことができ、意見を言う際、広い視野で自分の意見を述べられる。
- ③高校では学校図書館授業はほぼ無いが、何かわからないときに自然と学校図書館へ行って調べることが多い。
- ④ICT機器がそれほどそろっていないので、スマホで調べることはある。今思うと三中でのタブレットPCを使った授業は本当にわかりやすかった。

これらはほんの一部ですが、卒業生の声からも第三中学校での学びが、高校生活でも大きく役立っていることがわかりました。一方、在校生には、6月と12月に社会人として求められる資質・能力につい



て4年間で合計8回の意識調査を行いました。4年間通じて共通していた特徴は、1年生は入学したばかりの6月の調査よりも12月の方が数値が低下したということです。これは、何気なく向かっていった学習姿勢から様々な能力育成を意識し始めたことで、評価基準を厳しく設定しはじめたため自己評価が下がったと考えられました。その後、年数を追うごとに大きく伸び始めることが確認できました。

一方教職員の姿容として、研究当初伸び悩んでいた能力育成を意識して指導案に位置づけ、授業で取り組んだところ、教員が意識的に行った指導では、確実に生徒アンケートでも成果が出ていることがわかりました。授業改善には、指導者の意識が極めて重要であることがわかりました。

このような4年間にわたる研究の総括として、2月7日（金）に研究発表会を開催させていただきます。別紙でもお知らせいたしましたように、保護者、地域の皆様にも授業公開という形で参観いただけます。以上、研究発表会に向け本校の取組を紹介させていただきます。少し活字が多く申し訳ありません。

## 第53回東京都中学校アンサンブルコンテスト（1/18、19）

吹奏楽部顧問 主幹教諭 榎本秀子

A部門（皆川うた、酒井友伽、花井遥香、中村心、山崎優花）…銅賞

B部門（田口晴菜、細川玲奈、小倉柊子）…銅賞

1月18日（土）朝6時にA部門の出場メンバーが集まったところは、まだ真っ暗で、今にも雨が降りそうな空模様でした。一人お休みして5人となりましたが、やる気満々で意欲的な練習を繰り返し本番に備えました。学校を出発したときに降っていた冷たい雨は、府中の森芸術劇場に着いたころにはみぞれになっていました。音合わせをして本番前の舞台袖では、全員が緊張していました。出だしは緊張していたものの、徐々に本来の音になりました。結果は銅賞。審査員から指摘を受けたことを半年後のコンクールに活かそうと決意を新たにしました。帰りは雪が舞い、電車も遅れ気味でしたが、無事に帰着できました。

19日（日）、B部門のメンバーも1人お休みして3人となりました。音楽室で3人で合わせるところを確認し、本番に備えました。前日とは対照的な天気で、交通機関も順調で、府中の森芸術劇場までスムーズな移動ができました。本番では、安定した速さで演奏でき、銀賞まであと一歩という結果になりました。木管楽器の音づくりの大切さを再認識した意義あるコンテストとなりました。

2日間、自分の役割を果たすために懸命に練習し、講師の先生から細かい指導を受け、日増しに音がよくなっていきました。保護者の方々には朝早くからお世話になり、わざわざ会場まで激励にきてくださり、ありがとうございました。



## 「学校給食運営協議会」開催（1/22）

栄養士 馬場 みき

1月22日に、学校給食運営協議会を開催しました。当日は、1年生の保護者の方8名、PTA役員の方2名、教育委員会学校給食担当者の方1名、委託会社部長・チーフ、教職員（校長、副校長、養護教諭、1学年主任、栄養士）の18名で協議を行いました。

参加者の方々には、まず給食（チンジャオロース丼、トック入りスープ、ボン酢ドレッシングサラダ、いよかん、牛乳）の試食をしていただきました。協議会では、学校より今年度の本校における学校給食の取組や給食時の生徒の様子、生徒による食育推進プレゼンテーションのデモンストレーションの実施、教育委員会の方・委託業者の方からのお話、保護者の方からは給食を食べての感想などをお話していただきました。



【試食タイム】



【栄養士より取組紹介】



【保健委員長、大高君よるプレゼン】

参加された皆様のアンケートより、以下のご意見・ご感想をいただきました。

○安全、衛生管理に徹底して子ども達のことを考えて毎日給食が作られていることが改めてわかり、とてもありがたく思います。

○子ども達にとって、大人になってもきっと思い出に残る時間になっていると思いました。

○おいしく彩りも良く、栄養満点の給食を作っていただきありがとうございます。

○学校給食の摂取基準で定められているので仕方ないのですが、食塩相当量2.5g未満はかなり厳しいので毎日の献立作りご苦労されていることと思います。給食は生徒の健康維持・増進を目的としていることを考えるともう少し塩味をつけることができ、おいしさにつながるのかなとも思いました。

いただいたご意見は、今後の給食内容の充実のために反映してまいります。いつも、ご理解とご協力をありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。

## 各種表彰

東京都政策企画局主催『わたしが大人になった時の東京』絵画コンクール中学生の部		
入選	(1年生)	土屋 明莉
東京都福祉保健局主催 令和元年度未成年者喫煙防止ポスターコンクール		
最優秀賞	(1年生)	齊藤 百香

## 部活動報告

部活動名	顧問名	活動状況および顧問のコメント
家庭科部	鈴木	<p>〈顧問コメント〉3年生が引退してからは、1, 2年生の新体制で活動をしています。新部長を中心に手芸、調理を和気あいあいとやっています。</p> <p>輝汐祭展示の部では日頃製作した作品を展示し、皆さんに見ていただきました。これからも和やかに活動していきたいです。</p>
バレーボール部	吉新高倉	<p>令和2年1月12日(日) 荒川区中学校バレーボール 1年生大会 3位</p> <p>-----</p> <p>〈顧問コメント〉1年生にとって初めての大会でした。練習ではできていることが緊張からかミスにつながる場面も多くありました。ですが、チームとして3位という好成績を残すことができました。2年生のアドバイスや応援により1年生も学ぶことが多い大会になったと思います。今回の大会の反省をし、今まで以上に練習に取り組んでいきたいと思っています。今後とも応援をよろしくお願いいたします。</p>
書道部	大野大島	<p>2学期の活動報告です。</p> <p>-----</p> <p>〈顧問コメント〉昨年度をもって顧問が異動し、不慣れな新顧問と部員とで、輝汐祭での舞台・展示両方の発表を無事にすることができました。準備活動を通じて、部員たちの成長を強く感じました。また、特別講師に竹井美帆子先生をお迎えし、丁寧にご指導いただきましたこと、感謝いたします。これからも部員の熱意が続くかぎり、顧問としてサポートしたいと思っています。</p>
バドミントン部	青木大野	<p>令和元年11月10日(日) 令和元年度 第62回 東京都中学校バドミントン新人大会 Cブロック(5, 6合同ブロック)予選会 団体戦メンバー 國弘一葉、飯野愛央、石黒菜々美、松村朱理、 松本彩希、辻桃佳、星野愛結、土屋明莉</p> <p>令和元年11月17日(日) 個人戦 (都大会出場) ダブルス 第3位 國弘一葉・土屋明莉ペア</p> <p>令和元年11月30日(土)個人戦</p> <p>令和2年1月13日(月) 令和元年度 荒川区冬季学年別大会 男女個人戦 2年生女子シングルス 第2位 松村朱理 1年生女子ダブルス 第3位 金子静流・上原千陽ペア</p> <p>-----</p> <p>〈顧問コメント〉行事が重なり、忙しい中で練習時間やメニューを工夫し、努力を継続したことで、チーム一丸となって団体戦を行うことができました。ブロック大会や都大会に出場できたことや、冬季学年別大会で入賞できたことは大きな自信にもつながったと思います。今後も更に技術面でも精神面でも向上し、来年度の大会では関東大会出場を目指して頑張ってください。新学年になり気持ちが落ち着かない中で、練習時間も短く、大変苦労してきたと思います。常に目標をもって練習に励み、団体戦で優勝できたことは大変素晴らしいことです。個人戦では一人一人が精一杯の力を出し、課題が新たに見えてきたと思います。今後のブロック大会・都大会や夏の大会へ向けて練習に励み、更に活躍することを期待しています。</p>